# 平成29年度　学校評価総括(計画)表

五條市立　五條中学校

| 教育目標 | ◎「知・徳・体」の調和がとれた心豊かなたくましい生徒を育成する。<br>＜生徒像＞　○ 進んで学び考える生徒　○ 思いやりのある生徒　○　自らを鍛える生徒 | 総合評価 |
|---|---|---|
| 運営方針 | 夢や目標に向かい、強い意志で生き生きと活動できる学校づくり | B |
| 前年度の成果と課題 | 本年度の重点目標 | |
| 生徒達の規範意識も構築され、学力・体力をはじめとする成果が表れてきた。しかし、基礎・基本の定着が困難な生徒も少なくない。家庭学習の習慣化を目指すとともに、読書活性化事業及び道徳教育推進ともリンクしながら、特色ある学校運営を行う。 | ・個に応じた指導を充実するとともに、基礎・基本的な知識及び技能を定着させるための自ら学ぼうとする学習活動を工夫し、各教科において言語活動を充実させ、思考力、判断力、表現力を育成する。<br>・自己や他の人への理解を深め、生命を大切にする心、人権を尊重する心や自立心、責任感、正義感を育む。家庭学習の習慣を身に付けさせる。<br>・健康で安全な生活習慣を確立させるためにも、体力の向上を図ると共に積極的に運動に取り組む態度を育てる。<br>・ＰＴＡ及び自治会等地域組織との連携をはかり、生徒の「社会に協働・参画する態度」を育成する。 | |

| 教育活動や分掌等 | 評価項目 | 具体的方策･評価指標等 | 評価 | | | 成果と課題(評価の分析) | 課題の改善策等 | 学校関係者評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎・基本の定着 | 朝読書・読書習慣の推進 | 図書貸し出し目標１人５冊以上<br>図書館支援員の活用<br>図書室の移動・環境改善 | A | A | A | ・一人あたりの平均貸出冊数10冊を達成することが出来た。<br>図書室の移動、読書パズルが貸出冊数増加につながった。 | ・読書好きの生徒の貸出冊数は、増加したが、図書室の来室者の増加につなげられるよう、より一層の工夫が必要とされる | 日々の学校・家庭・地域による参画・協働、更には指導により、規範意識の向上が顕著に表れている。なお、生徒・保護者アンケート調査結果を考察する中、本人の興味・関心・意欲の向上はあるものの、家庭学習における取り組みについては、課題があるように思える。その改善方途としては、将来に向けての夢や目標を抱かせる教育活動の実施をはじめ、基礎基本の定着を推進すべく、わかる授業の展開を示しながら、『主体的かつ対話的な学習指導』の継続に期待したい。 |
| | 少人数指導の活用 | 全学年の数学科および英語科の少人数指導の実施 | A | A | A | ・授業に複数の教師が入ることで、つまずきの解消や基礎学力の定着していない生徒への個別指導を行うことができている。これにより、生徒が積極的に質問する姿も増え、学習への意欲の高まりが見られるようになってきた。また、教師間で情報共有や指導内容を検討しあう機会を設けることで、授業内で基礎、発展のクラスに分けての演習や、ICTの活用など、分かる授業への工夫が為され、生徒の学習に対しての姿勢も変わりつつある。ただし、めざましい成果を収めるには至らない状況である。 | 教師間の連携を更に密にし、基礎学力の定着に加え、自主的に発展的な課題に取り組めるような支援も必要である。<br>・より細やかな小テストを活用してのつまづき箇所の発見や、基礎・基本の問題の繰り返し学習の継続、少人数を生かした授業形態の確立を通して、学習意欲と学力のさらなる向上を図る。 | |

| 教育活動や分掌等 | 評価項目 | 具体的方策・評価指標等 | 評価 | | | 成果と課題（評価の分析） | 課題の改善策等 | 学校関係者評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 基礎・基本の定着 | 言語活動の充実 | 全生徒参加による「少年の主張」等の実施 | A | A | A | ・今年度も「少年の主張」等に全校生徒で取り組んだ。家族や友達との関わり、募金を通して救える命、フェアトレードについて知ることが大切であるなどをテーマに自分の考えに目を向ける作品など、本校から努力賞に４名が入賞し表彰された。社会的視野の狭さを補うためにも、総合的な学習や教科の授業で、考えをまとめる課題を積極的に行った。伝えたいことを文章にする取組を今後も継続する。 | ・少年の主張奈良県大会に全校生徒で取り組むことを今後も継続する。自分自身を振り返り、支えてくれる人の存在から、社会の中で自分がどのようなことをしていけるかなど、他者に目を向けられるよう、総合的な学習をこれまでと同様に、職場体験学習や働く人々に学ぶ学習会での経験を大いに生かしていけるようにしていく。文章を書く力を付けるためにさらに、読書や作文に触れる機会を増やす。 | 一枚目参照 |
| | 学習習慣の定着化 | 「夢現の力」提出率90%<br>チャイム着席の励行<br>放課後補習及び土曜塾の開講<br>自主学習ノートを活用しての家庭学習の推進 | A | A | A | ・昨年度から引き続き、定期テスト前の補充学習を開講した。各学年60%前後の参加率であった。<br>・家庭学習習慣の定着に向けて、自主学習ノートの取組を全学年で実施し、提出率は90%程度であった。また、自主学習ノートコンテストを開催し、自主学習ノートに対する啓発や意欲の向上を図ることができた。 | ・自主学習ノートの提出率は高まったが、更なる学力向上図る手法としてノートの内容に関してはまだまだ改善の余地がある。参考となるノートの掲示など、学習内容指導を重点的に行う。 | |
| | 教科・領域の学習を充実させる効果的な指導の実施 | シラバスの作成<br>授業研究の充実<br>ICTの活用 | B | A | A | ・シラバスの作成と配布<br>・デジタル教室を増やし、活用する教科と授業数が増加した。<br>・年３回の小中合同研修を実施し、道徳や外国語活動、算数・数学の研修を積むことができた。 | ・小中合同による授業研究の研修をおこない、小中一貫を見越した活発な意見交流をおこなうことができた。 | |

| 教育活動や分掌等 | 評価項目 | 具体的方策・評価指標等 | 評価 | | | 成果と課題（評価の分析） | 課題の改善策等 | 学校関係者評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 学級指導<br>特別活動 | 学びにふさわしい環境と人間関係づくり | Q-U検査の活用<br>生徒会活動と学校行事の活性化 | B | A | A | ・Q-U検査の結果を項目別に分析・比較することで、学級経営に活かすことができ、生徒理解につながった。<br>・生徒会を中心に、学校行事を盛り上げ、募金活動や地域との連携を図る「防災宿泊訓練」に取り組んだ。また、「花いっぱい運動」や「あいさつ運動」も定着し、社会貢献や環境美化の意識が高まり、規範意識も向上し、地域にも発信を続けることができた。<br>・３学期には、来年度の新入生を対象とした中学校体験入学を実施し、生徒会や在校生が中心となって取り組み、９年間を貫く教育実践につながった。 | ・Q-U検査の結果を基に、よりよい集団づくりができるように今後も資料を活かしていく。<br>・生徒会活動をより積極的に自主的に行うための育成の方法を検討し、自立した行動ができる生徒を育てていく。<br>・防災に関する意識をどう高めていくかが課題である。<br>・生徒会と地域との連携を一層深めるに方途について、多角的に模索する必要がある。<br>・生徒の規範意識を向上させるためには、教員自身の規範意識の向上が不可欠である。 | あいさつ運動、道徳推進事業、防災教育、ボランティア活動等々と登校時から一人一人の生徒を見守り、「知・徳・体」の調和のとれた心豊かなたくましい生徒の育成に向けた取組により、学習習慣の定着化及び言語活動の充実がうかがえた。なお、いじめ防止や学校に行きにくい生徒への支援を願う。<br><br>ボランティア活動（あいさつ運動・花いっぱい運動）をはじめ、防災活動等々、生徒会を中心とした諸活動を展開することで、一人一人の生徒自身の規律と活気ある集団作りが、育成された。 |
| 生徒指導 | よりよい集団の育成 | リーダーの育成<br>あいさつ運動の推進を通して、規律と活気のある生徒を育成する | A | A | A | | | |
| 人権教育・特別支援教育 | 自他ともに人権を大切にし、よりよく生きる力を身につける一方で、人との関わりを大切にし、学ぶことのできる「豊かな心」を持つ生徒を育てる | 「人権を確かめ合う日」集会の設定<br>ステップ学習の充実<br>インクルーシヴ教育の推進 | B | A | B | ・人権を確かめ合う日の集会を開催し、人権について考える機会を設け、自分の考え方を見つめ直す機会を作った。ステップ学習では生徒の学習習慣の定着と学力向上、それらを通じた仲間作りを目標として取り組んだ。共同製作の作品を福祉施設に寄付するなどの取組において、おおむね達成できた。<br>・特別支援学校生徒との交流学習を、学期に一回実施した。 | ・人権を確かめ合う日の集会を、生徒主体で進めていけるような工夫が必要である。<br>・人権についての知識を深めるために、様々な人々の話を聞く機会をこれまで以上に設けていくように努める。<br>・インクルーシヴ教育の更なる具体的教育実践を推進したい。 | |

| 教育活動や分掌等 | 評価項目 | 具体的方策・評価指標等 | 評価 | | | 成果と課題（評価の分析） | 課題の改善策等 | 学校関係者評価 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 運動を通した体力の向上 | 部活動加入率90%<br>体力テストの活用 | 部活動の活性化。<br>体力テストの結果を掲示することによって体力向上の意識を高める | A | A | A | ・部活動加入率は現状87%であり、加入率は90%に達することができなかった。<br>・運動への意識を高めることで苦手な部分の向上が見られた。 | ・部活動の勧誘ポスターや新入生歓迎会での取り組みをさらに活性化させ90%を達成させる。<br>・一人一人の課題表を作って体力テストに取り組ませる必要がある。 | 支援を要する生徒へのケアをはじめ、インクルーシヴな教育に向けた、学級・学年経営や各種各種行事等の工夫を期待する。また、「豊かな心をもち、たくましい生徒の生徒の育成」については、小規模校になったものの各種部活動、各種行事等々について、一定の成果が感じられる。 |
| 健康で安全な生活習慣の確立 | 危機管理意識の育成 | 「安全・安心」な学校づくりの推進 | A | A | A | ・地震や火災等を想定した避難訓練を、学期に1回以上行った。不審者侵入を想定した危機回避訓練も、警察の協力の下実施した。また、保護者や地域、消防署や市危機管理課等の関係機関とも連携した「防災宿泊訓練」に今年も取り組んだ。地域のマスコミ等でも紹介され、生徒・教員の危機管理意識が向上してきている。 | ・危機意識を普段から持つためには、生徒はもとより、教員の臨機応変な対応力が必要である。事前に知らせずに、場に応じた危険回避行動がとれる訓練を今後も継続していく。また、教員のみを対象とした危機回避訓練も実施していきたい。 | |
| 家庭・地域との連携 | PTAの活性化 | 学校と地域が連携・協働する体制の構築 | A | A | A | ・各学校行事や防災宿泊訓練、ＰＴＡ各委員会活動等に保護者は積極的に参加し、生徒が地域行事にも参加することで、学校・家庭・地域との連携を図ることができた。 | ・危機意識を普段から持つためには、生徒の臨機応変な対応力が必要である。様々な場合を想定して、状況に応じた避難行動をとる訓練を今後も継続する。 | PTAをはじめ、パートナーシップ事業、学校評議員会更には、学校運営協議会を通して、ボランティア活動や防災教育の広まりや深まりができ、かつ各事業や各員会がリンクし、良きシナジー効果が生じた。今後も引き続き継続することも期待する。 |
| | 地域の教育力の活用 | 五條学の実施<br>ふるさと学習の推進 | A | A | A | ・１学年では藤岡家住宅訪問、２学年では吉野川でのラフティング体験および浴衣着付け体験、３学年では修学旅行時にふるさと五條を紹介した。それぞれの活動を通じて、五條の文化財や豊かな自然のすばらしさを確認し、郷土を愛する心情を養った。 | ・各行事とも、生徒達は積極的に楽しみながら学習活動に取り組み、自分たちのふるさとについての関心や理解を高めることができた。また、ご協力いただいた地域の方々からもお褒めの言葉を頂いている。今後も取組を継続したい。 | |
| | 情報の発信 | 学校新聞・学年だよりの発行<br>メール連絡網・ＨＰ・Blog等の活用及び情報発信の活性化 | B | A | B | ・月一回の紙面による学年だよりと、行事の都度ブログを更新することで、全校および学年の活動を知らせている。<br>・緊急時の連絡手段としてメール連絡網を利用し発信しているので、保護者にも浸透してきている。 | ・HPとブログの更新については、集約方法等を検討し、更新頻度を高めたい。<br>・メール連絡網の加入率が85%程度にとどまっているので、加入者増を目指したい。 | |